



中高生とともに差別と闘う

「ジぬきの未来」

吉成タダシ (うずしおブランチ代表)



人権はブームか

七年前、親しくしていた静岡の先生が、人権教育に取り組み私にこう言ったことがあります。

「人権教育はね、ブームですよ」

ふとした場面でサラッと言われたこの一言が妙に残って、その後も忘れられずにと考えていたのですが、後々になってじんわり分かりますじめました。

彼は、時代時代に流行の人権課題があつて、その盛り上がり方もその時代時代によって違う、つまり、「ブーム」のようなものだ、ということを端的に伝えてくれたのだと思います。人権学習の必要性和大切さを説く私に、よくよく考えてしてくれたアドバイスでした。なるほどな、と思いました。でも、それは結果論であつて、果たしてそれでいいのか、というところ、

否

と言わずにはいられません。

たとえどんな時代でも、どんな人権課題が盛り上がっていても、いつの時代もどの人権課題も、常に光が当てられていなければいけない。仮に結果的にそうであつても、そこにブームなどあつていいわけではない。私はそう思うのです。

高校説明会にて

先日、県内の五つの高校から校長先生や進路担当の先生に來校していただき、中学生に向けて各高校につ

いてのプレゼンをしていただきました。高校の「売り」をアピールしてもらふことで、中学生の進路選択に役立ててもらふというものです。

各校の特色として、どんなイベントをしているのか。どんな学習の取り組みをしているのか。どんな資格・免許が取得でき、どんな評価を得ているのか。部活動の実績はどうか。進学・就職の実績はどうか。生徒会制作だというPR動画の上映など、あらゆる方面からお話しいただきました。

聞いていた私のポイントがずれているのかもしれないが、一番違和感があつたのは、「国公立大、有名私立大、医学部に〇〇人合格しています」というアピールでした。気持ちばかりです。高校側としての。でも、まだ入学もしておらず、この高校を受験するか悩んでいる中学生に、さらにその先の話をされても、果たしてどこまで意味があるのかと首を傾げました。ポイントがずれているのは、私なのか、高校側なのか。

さらに聞いていて違和感を覚えたのは、「人権」というワードが一切出てこないことでした。人権教育が同和教育と言われている頃は、どの高校にも必ず、学校紹介としてのワードが出てきていたように思います。

「生徒一人一人の人権を尊重し…」
「人権意識を高める取り組みを…」
途中からこのことに気づき注目し

て聞いていたのですが、結局五校とも最後まで出てきませんでした。わずかにそれらしきものが出てきたワードは、「人間力の育成」とか、国際英語科の、「相手の気持ちを考えられるグローバル人材の育成」「異文化理解」といったもののみでした。これにはさすがにショックを受けました。

危険なビジョン

どの高校も、「知」と「行」、つまり、知識や行動力についてはよく話されていました。けど、「共」や「感」、つまり、仲間を大切に、共に何かをやり遂げていくことの必要性や、感性を育み、これからの日本や世界の未来にどうつながっていくのかといった視点が薄いというのか、まったくないという事実には、愕然とし、ショックを受けたのです。

十年前、少なくとも二十年前の高校には間違いなくあつた視点です。いったいこの十年、二十年の間で、何が変わってしまったのでしょうか。それは、我が町だけに特化したことなのでしょう。

どんなに高度な知識、資格を取得しても、部活動や進学・就職にどれだけの実績を挙げても、そこに人権という視点がなければ、赤ちゃんと凶器を渡すようなものです。

かつてヒトは、高度な科学技術力を人類の発展に生かしてきた一方で、人類や地球を破壊させるような悪行も働いてきました。それは「か

つて」ではなく、今もまだそうかも知れません。

「ジぬき」の未来

同和教育が人権教育に取って代わりつつある頃、「部(部)ぬき」「サ(差)ぬき」と言われたことがありました。人権・同和教育の研究をする会で、「部落」や「差別」という言葉が使われず、耳障りのいい言葉ばかりが並べ立てられるようになってきたことに対する指摘でした。今もそういう傾向にあるといえます。そのうえ今は、「ジ(人)ぬき」、つまり、「人権」が学校の中心に居なくなつたということです。

はじめに戻りますが、人権にブームなどあつていいわけがありません。人類が存在する限り、人権というテーマはあり続けます。永遠のテーマです。となれば、考える方向性は、人権が切り分けられた別個の問題ではなく、どんな事象とも一体であるという視点に立つことが必要です。時代が変わったからといって軽んじられていい人権など何一つないということなんです。とにかく、本当に衝撃的で、ショックな一日でした。心を育まない知識や行動は、どんなに暴力装置を生みだしてしまいかねない。そういった歴史観にしっかりと立ち、教育に携わってほしいと切に願います。いつか高校の先生に会う機会があれば、尋ねてみようと思います。